九～十七　［略］

十八　処理能力　処理設備又は減圧設備の処理容積（圧縮、液化その他の方法で一日に処理することができるガスの容積（温度零度、圧力零パスカルの状態に換算したものをいう。以下同じ。）をいう。以下同じ。）であつて、次に掲げる処理設備又は減圧設備の区分に応じ、それぞれに掲げるところにより得られたもの

イ～ヘ　［略］

ト　その他処理設備

(イ)・(ロ)　［略］

［削る］

(ハ)　内部冷却器付貯槽　$Q_{11}=V_{11}\times 10P_{11}$

(ニ)　加圧蒸発器付貯槽　$Q_{12}=(10P_{12}+1)\times 0.9V_{12}$

(ホ)　加圧蒸発器付低温貯槽

①　［略］

②　液化ガスを取り出す場合　$Q_{13}=(10P_{13}+1)\times 0.9V_{13}$

(ヘ)・(ト)　［略］

チ・リ　［略］

備考　これらの式において、Q_1、W_1、ρ、M、Q_2、W_2、Q_3、W_3、Q_4、W_4、Q_5、q_5、Q_6、q_6、Q_7、q_7、Q_8、Q_9、V_9、P_9、Q_{10}、V_{10}、P_{10}、n、Q_{11}、V_{11}、P_{11}、Q_{12}、P_{12}、V_{12}、Q_{13}、W_{13}、P_{13}、V_{13}、Q_{14}、P_{14}、V_{14}、Q_{15}、Q_{16}、q_{16}、Q_{17}及びW_{17}は、それぞれ次の数値を表すものとする。

Q_1～n　［略］

［削る］

［削る］

［削る］

［削る］

Q_{11}　［略］

V_{11}　［略］

九～十七　［略］

十八　処理能力　処理設備又は減圧設備の処理容積（圧縮、液化その他の方法で一日に処理することができるガスの容積（温度零度、圧力零パスカルの状態に換算したものをいう。以下同じ。）をいう。以下同じ。）であつて、次に掲げる処理設備又は減圧設備の区分に応じ、それぞれに掲げるところにより得られたもの

イ～ヘ　［略］

ト　その他処理設備

(イ)・(ロ)　［略］

(ハ)　コールド・エバポレータ（専ら液化アルゴン、液化炭酸ガス、液化窒素又は液化酸素の貯槽（二重殻真空断熱式構造のものに限る。）に接続された蒸発器により当該液化ガスを気化するための高圧ガス設備をいう。以下同じ。）

①　気化ガスを取り出す場合

(i)　送ガス蒸発器の常用の圧力が一メガパスカル以上のもの　$Q_{11}=W_{11}\diagup(22.4\diagup M\times\rho\times 1000)\times(10P_{11}+1)\times 24+W_{11}\times 24$

(ii)　送ガス蒸発器の常用の圧力が一メガパスカル未満のもの　$Q_{11}=W_{11}\diagup(22.4\diagup M\times\rho\times 1000)\times(10P_{11}+1)\times 24$

②　液化ガスを取り出す場合　$Q_{11}=(10p_{11}+1)\times 0.9V_{11}$

(ニ)　内部冷却器付貯槽　$Q_{12}=V_{12}\times 10P_{12}$

［新設］

(ホ)　加圧蒸発器付低温貯槽

①　［略］

②　液化ガスを取り出す場合　$Q_{13}=q_{13}\times(10P_{13}+1)\times 24$

(ヘ)・(ト)　［略］

チ・リ　［略］

備考　これらの式において、Q_1、W_1、ρ、M、Q_2、W_2、Q_3、W_3、Q_4、W_4、Q_5、q_5、Q_6、q_6、Q_7、q_7、Q_8、Q_9、V_9、P_9、Q_{10}、V_{10}、P_{10}、n、Q_{11}、W_{11}、P_{11}、p_{11}、V_{11}、Q_{12}、V_{12}、P_{12}、Q_{13}、W_{13}、P_{13}、q_{13}、Q_{14}、P_{14}、V_{14}、Q_{15}、Q_{16}、q_{16}、Q_{17}及びW_{17}は、それぞれ次の数値を表すものとする。

Q_1～n　［略］

Q_{11}　コールド・エバポレータの処理能力の数値（単位　立方メートル毎日）

Q_{12}　送ガス用蒸発器の公称能力の数値（単位　立方メートル毎時）

P_{11}　送ガス用蒸発器の常用の圧力の数値（単位　メガパスカル）

W_{11}　加圧蒸発器の常用の圧力の数値（単位　メガパスカル）

p_{11}　貯槽の内容積の数値（単位　立方メートル）

V_{11}　［略］

Q_{12}　［略］

V_{12}　［略］